

2024 ~ 2025 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーのマジック

●会長 前田日出夫
●幹事 福井 学



 No.1890 令和 07 年 02 月 12 日 第 25 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~
 ※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内
 ※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053
 ※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org



■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「四つのテスト」

■熊本東南ロータリークラブの歌

「Joyful And Good」

(ソングリーダー 彌富照皇)

■地区委員の委嘱状授与

「2025 ~ 2026 年度 危機管理委員 彌富会員」



■今月の誕生祝い

(親睦スマイル 松田和成会員)

HAPPY BIRTHDAY

2月誕生祝

| 【会員】 | 誕生日 |
|----------|-------|
| 前田日出夫 会員 | 2月3日 |
| 山田 公也 会員 | 2月2日 |
| 古田 哲朗 会員 | 2月16日 |
| 彌富 照皇 会員 | 2月19日 |
| 松田 和成 会員 | 2月1日 |
| 武末 直大 会員 | 2月25日 |
| 松尾 浩 会員 | 2月7日 |
| 西田 智史 会員 | 2月9日 |

| 【配偶者】 | 誕生日 |
|---------|-------|
| 彌富 道男 様 | 2月9日 |
| 杉本 佳子 様 | 2月14日 |



■会員の時間

(宮川 義行会員)



ロータリー歴 10 年。会社設立 36 年、
 塗装歴 50 年、逮捕歴 2 回の宮川です。
 狭心症から 11 年、心臓にはステント 5 本、脳梗塞から
 2 年。頭を叩いて脳の血管をつないでいます。
 綱渡りの人生を送っています。
 東南ロータリークラブとの縁は、小畑会員の結婚式でし
 た。
 500 名を超える招待客で賑わう会場で、ふと後ろの
 テーブルを振り向くと、仕事でお世話になっていた鈴木会
 員と福井会員がいました。
 びっくりしました。
 挨拶をすと、横にいた初対面の中さんから二次会に誘
 われました。
 そこで初めてロータリーを知り、例会に来るように誘われ
 ました。
 例会に参加すると、志賀塗装の志賀会長がいました。

22 歳で初めて塗装の世界に入った時からの、大先輩
 でした。
 入会を断れる雰囲気では、ありませんでした。
 例会が終わって中さんから、今度阿蘇に付き合えと言わ
 れ待ち合わせの場所に行くと、熊大の米山奨学生バク・
 ナヨンがいました。
 カウンセラーだった中さんが、女の子と二人だけの車
 の移動は禁止されているから付き合ってください。
 今から、阿蘇ロータリーに米山卓話に行くと言われつい
 ていきました。
 その後も米山卓話の時は、必ず誘われました。
 おかげで、他クラブの事も知ることができました。
 バク・ナヨンは、優しく頭のいい子でした。
 東南ロータリーの二次会で、おじさんたちからセクハラさ
 れても気にせず、積極的に飲み会に参加していました。
 次の年は熊本地蔵、国際大会がソウルで開催されまし
 た。

バク・ナヨンはガバナーの通訳を任せられ、小畑さんのサポ
 ートに助けられ、頑張っていました。
 その後、韓国の日本領事館に就職したいと活動していま
 したが、かたがたありませんでした。
 今でも、日本を愛しながらソウルで元気に頑張っていま
 す。
 入会して 1 か月ほどして佐野さんから、君はロータリーで
 何をしたいのかねと聞かれ、まだわかりませんと答えると、
 職業準仕を学びなさいといわれました。
 それで地区の職業準仕委員になって 8 年。
 その間、永田ガバナー、倉田部門長、大森ガバナー、木
 下修部門長、そして、古田部門長と一緒に、経営者とし
 ての資質を、学ばせていただきました。
 倉田先生からは、クラブ志保に度々招待してもらいま
 した。
 ある時倉田先生から、職業準仕セミナーの体験発表卓
 話を、ベテランと新入会員にお願いしたい。

人材豊富な東南ロータリーから推薦してくれないかと、
 頼られました。
 そこで、松本繁会員と新会員の松岡会員にお願いして
 卓話をしてもらいました。
 二人共素晴らしい卓話で、大変好評でした。
 気を良くした倉田先生から、君のクラブの優秀な弁護
 士の古田君を、是非とも職業準仕の地区委員に誘って
 ほしい。同じ弁護士の仲間が欲しい。と言われました。
 古田君に伝えると、倉田先生の頼みなら断れないなあ
 まんざらでもない顔で引き受けてくれました。
 倉田先生からは、それから何度も飲み会に誘われました。
 ほとんど、先生のおごりでした。
 佐野さんからも、スナック員によく誘われました。
 2 人きりの時は、職業準仕の話し、規定審議会のこと、
 寛容の心についてよく話してくれました。
 歌が好きで、気持ち良くお酒の飲める方でした。

亡くなられる半年ほど前、久しぶりに例会に出席された時、君に頼みがあると呼び止められました。
もし例会中に倒れたら、僕の面倒を見てくれないかと真剣な表情で頼まれました。
わかりました。と答えましたが、それからの例会の日は緊張の連続でした。
常に佐野さんの動向に気を使っていました。
酔った佐野さんを抱えた時の重さを思い出すと、身が引き締まりました。
そして、突然、例会の次の日にご自宅で亡くなられました。
佐野さん、ありがとうございました。
貴のママも、4月で3回忌です。
この10年、一也さんに生まれて初めてキャバクラに連れて行ってもらったり、鈴木さんと白石さんの激論を横目に3時間1人で歌わせてもらったり、
都町で内田さんと2人でぼったくられたり。

まだまだ、学ぶことばかりです。
最後に、一番感動したことです。
震災の年フードパルで、映画健さん試写会をしました。
理事会で、新米の僕を実行委員長に選んでくれて、ありがとうございました。
仮設住宅1軒1軒を頭を下げながらチラシを配ってくれた皆さん、バスや弁当の手配してくれた皆さん、会場設営と片付けを頑張ってくれた皆さん、皆さんの一生懸命な姿に、僕は感動していました。
あれからずっと、東南ロータリーが大好きです。
これからも、皆さん宜しくお願いします。

令和7年2月12日 宮川義行

■幹事報告 (幹事 福井 学)



■ 来信案内
特にございません。

■ クラブより
特にございません。

■今後の地区行事

| 開催日 | 行事名 | 場所 | 会場 | 出席者 |
|------------------------------|-------------------------|------------|-----------------------------|----------------------------|
| 2025年 2月15日(土) ・16日(日) | RLI パートⅢ | 大分県 大分市 | コンパルホール | 彌富照皇 梶勝也 草村安宏 堤勝也 |
| 3月8日(土) ・9日(日) | 会長エレクト研修 セミナー (PETS) | 大分県 大分市 | ホルトホール大分 ホテル日航 大分オアシス | |
| 4月25日(金) ・26日(土) | 地区大会 | 熊本県 熊本市 | 熊本 市民会館 | 案内中 |

■ロータリーの友1月号の紹介 (雑誌・会報担当 松尾 浩)

平和構築と紛争防月間
横書き
P4・P5
会長メッセージ
P7・P17

ジョージ・武井さん

「スタートレックの俳優」

民主主義が成り立つには、高度な教育を受けた教養のある市民の存在が不可欠

P42
2720 地区の記事
防災体験

縦書き
P4
「新しい戦前」
「坂の上の雲」



戦争の始まりは自分の中の「何か」

P9～
久留米中央 RC
ソンプンケン
高雄文山 RC 姉妹提携の話
カオシヨウウェンシャン



*和歌山東南RC寄付活動について

2024年11月28日(木) 寄贈式

2024-2025 年度社会奉仕事業「災害対策向 ソーラーパネル方式
ポータブル電源4セット」和歌山市へ寄贈

https://www.facebook.com/RC.WakayamaSouthEast?ref=embed_page

■委員会報告

(親睦・スマイル担当委員長 松田和成)

2月23日(日・祝)

親睦パークゴルフ大会の案内



■出席報告

(出席・プログラム担当委員長 片岡 貞志)



| 月日 | 会員数 | 出席者数 | MU | 修正出席者数 | 出席率(%) |
|-------|------------------|---------------|----|--------|--------|
| 1月29日 | 休会 | - | - | - | - |
| 2月12日 | 40 (免2) 38 | 30 (ZOOM1) | - | - | 78.95 |

☆出席免除

2月12日

住江正治 島村徹男

■スマイル

(親睦・スマイル担当委員 生駒ちあき)



◎松尾 浩 10,000 円

誕生日祝いありがとうございました。



◎宮川義行 5,000円

玄宅寺の職場訪問おつかれ様でした。勉強になりました。ついでに祖母の墓参りもさせていただきました。昨年祖母の13回忌を玄宅寺で行いました。過ぎ去る時の早さの中で、立ち止まって人生を確かめる事も必要だと思います。有意義な職場訪問だったと思います。その後、荒尾のシオン園に自転車贈呈に行きました。志賀会員、生駒会員、巖君、お疲れ様でした。



◎山田公也 5,000円

誕生祝いありがとうございました。



◎横山佳之 3,000円

早退スマイルです。これより飲酒撲滅のパレードに行ってきます。終わって、またこちらに帰ってきて勉強会です。



■国際奉仕委員会卓話

(国際奉仕担当委員長 小畑成司)

ロータリーは親睦にはじまり、職業奉仕に目覚め、それが社会奉仕に展開、ついに国際奉仕の花を咲かせたのです。

それを富士の山に例えることができます。甲斐駿河にまたがる広い裾野、これがクラブ奉仕であり、親睦であり、友愛です。



この広い裾野があればこそ富士の高嶺がそびえるのです。

さて、裾野から少し登った樹林、青木ヶ原のあたりが職業奉仕です。その上に岬々としてそびえるのは岩肌の部分、すなわち2、3合目あたりが社会奉仕であり頂上の白雪をいただいた秀嶺が国際奉仕です。

国際奉仕はロータリーの花です。しかしそれだけに高嶺の花のきらみもあります。

ロータリーの国際奉仕は、ロータリーの世界的発展の賜物です。奉仕の理想の共鳴者が世界中に広がり、自己の繁栄と公共への奉仕が両立するロータリー哲学の信奉者が増えて世界中に散在することによって成り立っています。すなわち志を同じくする人が手をつなぐことによって期せずして国際親善、国際理解が出来るという訳です。

こうして世界のロータリアンがその善意を交換し、理解を深めることによって世界平和をうちたてるのが国際奉仕の狙いなのです。

■報告事項

(ロータリー財団委員 彌富照皇)

グローバル補助金完結報告

■点鐘

(編集者 松尾 浩)

◆施設の高校生通学用自転車寄贈支援活動

2025年2月7日

⑤熊本ライトハウス



2月12日

⑥熊本天使園



⑦八代ナザレ園



⑧光明童園



⑨湯出光明童園



■パークゴルフとは？

パークゴルフは、クラブ1本とボール1個それにボールを置くティーがあれば、誰にでもプレーを楽しむ事ができる簡単なスポーツであり、芝生の上で太陽の光をいっぱい浴びながらボールを打ち、打数を競い合いながら楽しく遊べる健康的なスポーツです。



◆分断ではなく平和の連鎖を

・ロータリーボイスより

～パレスチナ支援に長年携わる平和フェローがガザの現状と平和について綴る

寄稿者：金子由佳（元ロータリー平和フェロー）

私はロータリー平和フェローとして、2010年～2011年にクイーンズランド大学（オーストラリア）の大学院国際政治学部で平和・紛争解決コースに参加しました。フェローシップ（全額支給の奨学金）を通じて、大学での授業はもちろん、実地体験（AFE）として3カ月にわたる国際組織でのインターン、平和学に資するスタディーツアー、学会発表への参加、受入国オーストラリアでの多様な人びととの交流など、平和を学ぶために有益な機会をたくさんいただきました。AFEでは、前職の同僚を頼ってアフリカのシエラレオネ・カンビア県で行われていたJICAの地域開発事業でインターンとして3カ月滞在しました。また、スタディーツアーではパレスチナのヨルダン川西岸地区に1カ月間、現地NGOのボランティアとして参加しました。

ガザの保育園での子どもたちとの栄養セッション（2016年）

卒業後は特に、パレスチナでのボランティア活動での経験をもとに仕事を探し、2012年から2017年には、日本国際ボランティアセンター（JVC）と言う国際協力NGOでパレスチナに赴任、ガザ地区で母子の栄養改善事業に携わりました。この5年間でガザ地区を頻りに訪れ、横浜のロータリークラブの皆さんと、グローバル補助金を使った母子保健事業も実施しました。

2018年からは日本赤十字社などで働きながら、パレスチナの支援を続け、今は国際NGO、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでガザ地区の緊急支援、生計向上支援の担当をしています。その傍ら、立教大学で2019年から「パレスチナ問題の歴史と現在」という授業を担当し、パレスチナ問題を通じて国際政治や宗教問題、紛争問題を考える機会を若い人たちに提供しています。



ガザでの悲惨な現状

パレスチナ・ガザ地区では、ご存じの通り2023年

10月から大規模な空爆が行われ、先日停戦合意に至ったものの、4万7千人以上の市民が犠牲になりました。うち7割は子どもと女性と言われ、四肢を失うなどの大きな障害を負った子どもも6千人に上ると見られています。また民家の9割は破壊され、今後の復興に途方もない年月と費用がかかる見込みです。

破壊されたガザ北部の友人宅

私が一緒に働くガザ現地のスタッフの多くも家を失い、友達も家を失いました。空爆中は何度も避難を繰り返し、今は家とも呼べないようなところで、まともな食事とれず、避難生活を余儀なくされています。ガザの冬はみぞれが降るほど寒いのですが、医療施設も甚大な被害を受けており、関連死も増え続けています。

とりえず停戦になりましたが、これからどうすればいいのか、皆が途方に暮れています。また、65万人いると言われる学生（小学生や中学生含む）も、この間一切学校に行けていません。教育が止まり、思い出ごとく町が壊され、友人や家族が無残に殺される様子を400日以上見続けたガザの子どもたちの心に、世界はどう見えていたのでしょうか。

パレスチナは、紛争の代名詞ともいえるほどよく耳にする名前だと思いますが、この問題は今年で77年を迎えています。そして、ガザへのこうした大規模空爆は、何度も起きています。

市民のつながりこそが大事

よく、大学の生徒から「暴力の連鎖を断ち切るにはどうしたらよいですか？」という質問を受けます。そのような時、私は、非常に単純ですが、「暴力とは逆の連鎖を作ること、つまり平和の連鎖を作ることが大切ではないか」と伝えています。

具体的には、武器を作らない、持たない、持たせないことがまず大事です。そして暴力以外の道で、交渉を行うこと、人びとの生活をよくするためにお金を投資すること、利益を独占しないこと、などが大切です。人が豊かになり、公平になれば、不満は減ります。

しかし昨今は、人びとの不満を煽（あお）り、仮想敵のイメージを増幅し、市民同士のつながりを分断するような動きが増えています。確かに、気候変動問題などを考えると、将来は不安要素に満ちています。近隣諸国の動きも気になることです。

しかし、ここで分断をストップし、互いに歩み寄らなければ、人類が、多大な犠牲を払って築いてきた人道・人権という概念や、平和や人間の安全保障というシステムを、自ら捨てることになってしまいます。これから厳しい時代になりますが、粘り強く平和をあきらめないことがガザになります。分断される社会の中で、どうしたら人びとの連帯と慈愛の気持ちを増やせるのか。

平和の連鎖を作るには、ロータリーの皆さんや、NGOが実践する市民同士のつながりが大切になってくると思います。

